

経営比較分析表（令和6年度決算）

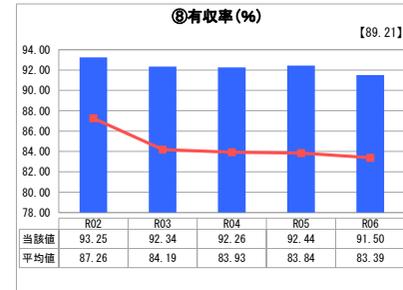
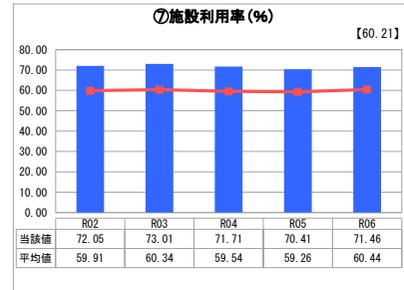
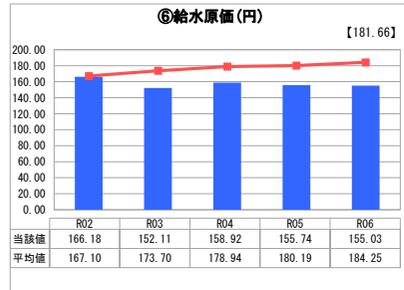
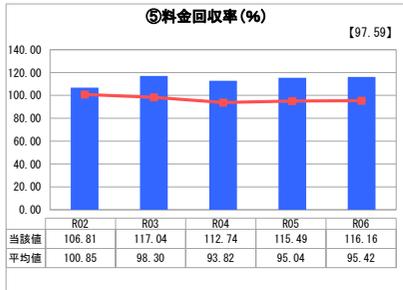
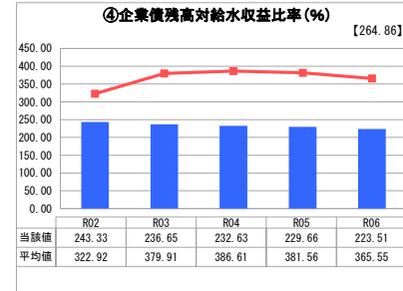
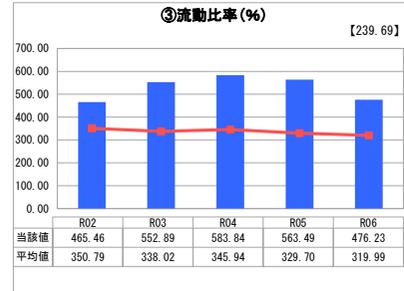
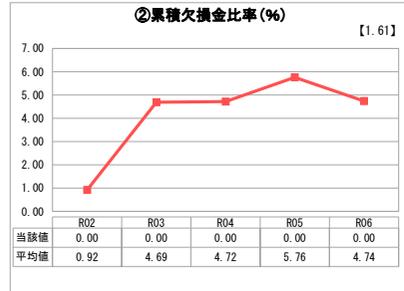
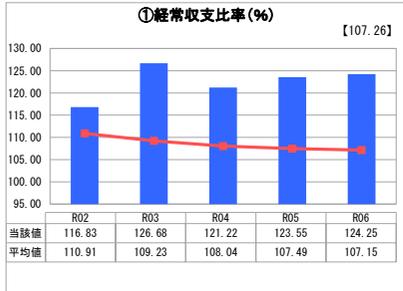
岩手県 滝沢市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり客産料金(円)	
-	81.07	89.94	3,398	

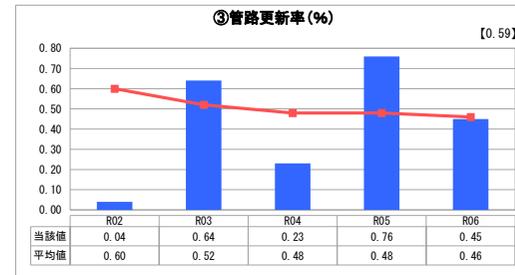
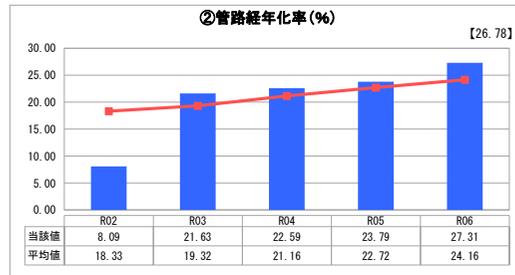
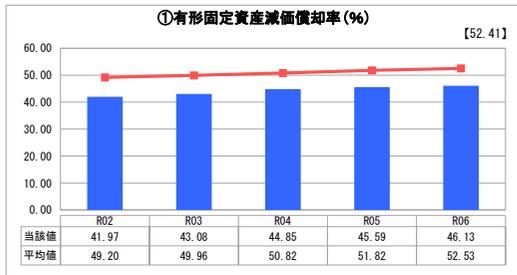
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
54,413	182.46	298.22
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
48,645	67.14	724.53

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全性・効率性を示す指標について、R06年度は過去4年の本市実績値と同様に、類似団体平均値や全国平均値と比較して、全般的に良好といえます。

①経常収支比率、③流動比率、⑤料金回収率は100%を上回っており、②累積欠損金も無いことから、収益で当年分の費用を賄っており、短期的な債務に対する支払能力も十分にある状況といえます。
④企業債残高対給水収益比率は、R02年度以後毎年着実に減少しています。
⑥給水原価は、R02年度まで営業費用として支出していた管路更新等に伴う路面復旧費を、R03年度からは建設改良費として支出するようにしたために一旦減少しましたが、R04年度に増加し、R06年度もR03年度の給水原価を上回っています。これは電力料金等物価の上昇が一因と考えられ、今後もこの傾向は続くと思われますが、類似団体平均値は下回っており、効率的な維持管理や経営が行われています。

⑦施設利用率は類似団体平均値や全国平均値と比較して高い値で推移し、施設が効率的に利用されている状況です。

⑧有収率はR05年度を下回りましたが、平均値を大きく上回る高い水準を維持しており、良好な状況です。

2. 老朽化の状況について

老朽化の状況を示す指標によると、本市においても他団体と同様に施設の老朽化が進行しているといえます。

①有形固定資産減価償却率は類似団体と同様に着実に増加しており、老朽化が進んでいます。

②管路経年化率はR03年度に急増しています。これは40年前の拡張事業で設置した管路が一斉に耐用年数を経過したためです。また、R06年度には新たに一部施設が耐用年数を迎え、類似団体平均値、全国平均値を超える値で推移しており、他団体同様に更新を着実に進めていく必要があります。

③管路更新率については、R04年度に更新した管路が他事業との関連で未供用のままとなり、R05年度になって供用を開始したため、R04年度の値が低くR05年度の値が高くなっています。R06年度については類似団体と同程度となっています。

全体総括

本市水道事業の経営状況は現時点では比較的良好ですが、今後は人口減少や節水意識の高まりなどにより有収水量が減少することで収入は減少傾向となることに対して、施設の老朽化に伴う更新需要の増大や人件費・物価の高騰により営業費用は増大するなど、経営環境は厳しさが増してくるものと考えられます。

このため、より一層厳しいコスト意識をベースに経営の効率化を図り、更新需要の精査・平準化や施設規模の適正化、水道料金見直しの検討などを継続的に行いながら、経営の安定化に努めていく必要があります。